魚病等実態把握指導*

小川　健・木村　創

水産用医薬品の適正使用および防疫措置等の指導を行うことにより魚病の発生および蔓延を防止し，魚病被害を軽減させるとともに食品として安全な養殖魚生産の確保を図り，もって水産増養殖の健全な発展と養殖漁家経営の安定に資することを目的に，国庫補助を受けて本事業を実施した。

本事業は水産庁の魚病対策事業として昭和59年度から開始され，本年度が最終年度にあたる。実施概要は次のとおりである。

1　魚類防疫対策事業

1）防疫会議等

(1)　防疫会議

1988年4月18日，串本町において開催し，昭和62年度魚病発生状況の報告と海産魚の繊毛虫症対策について検討した。

(2)　防疫検討会

北部海域では11月11日由良町で，中部海域は12月15日白浜町で，南部海域は12月12日串本町で，東部海域は12月21日那智勝浦町で，それぞれ水産課，水産業改良普及員，関係漁協，養殖業者等の出席を得て，昭和63年度の10月末までの魚病発生状況の報告と海産魚の寄生虫症対策の検討を行った。

2）防疫対策定期パトロール

魚病の適切な予防治療対策の指導および漁場の防疫監視のため毎月1～2回，各養殖地域をパトロールした。

3）魚病発生時の緊急対策

'88年9月29日串本町袋漁場で発生したマダイの白点病対策として，小割筏の沖合への移動を指導した。

4）魚病発生防止対策

(1)　養殖場の定期観測

1988年4月から'89年3月まで毎月1回，各海域の漁場1～2ヶ所で，水温，DO，比重，透明度を測定した。

(2)　魚病情報の収集・伝達

ブリの黄胆症・上彎症，マダイの繊毛虫症，シマアジの真菌症等について，南西海区水産研究所，養殖研究所，近県水試および県内養殖漁業者の間で発生情報等の収集・伝達を行った。

＊　魚病等実態把握指導費による。

5) 種苗の魚病検査

ブリおよびマダイの養殖用種苗を対象に，ブリ7件，マダイ1件の魚病検査を行った。ブリ・マダイとも全ての検体から病原体が分離された。

6) 魚病講習会

'89年3月15日，串本町の和歌山県漁民研修所において，高知大学農学部楠田理一教授による「魚病対策と問題点について」の講習会を開催した。出席者は養殖業者，関係漁協職員等約30名であった。なお前日の3月14日には同教授による，串本・古座地域浅海漁場における現地指導を実施した。

2 魚病関連機械器具等整備事業

なし

3 水産用医薬品指導事業

1) 医薬品適正使用対策

水産課にて実施。

2) 医薬品残留検査

出荷のため水揚げされる養殖ブリを対象に，背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。検体は，'88年12月26日東部海域からエリスロマイシンを対象に10検体，中部海域からアンピシリンを対象に'89年1月18日および27日に各10検体，計30検体採取した。

医薬品の残留分析は(財)日本冷凍食品検査協会神戸事業所に委託したが，いずれの検体からも医薬品は検出されなかった。